

帆船日本丸&横浜みなと博物館

* 横浜港のシンボリック存在 *③

保存と公開と青少年錬成の3つの事業があります

■ 保存事業

公開事業と青少年錬成事業をするために「生きた船」としての船舶資格を有する必要から年次船舶検査、船体整備工事と日常の保守点検整備などを実施しています。この日常の保守整備は、甲板ボランティアの協力も得て実施しています。1990年からは船舶安全法施行規則の改正にともない、係留船の資格も併せ持つことになりました。

■ 公開事業

「生きた船」を維持しながら、船内を一般公開しています。2019年8月には乗船者550万人を達成しました。また、1年間に2回程度、展帆ボランティア約80名の協力のもと、日本丸のすべての帆をひろげる総帆展帆を行っています。無事故で300回以上の回数を重ね、今では横浜の魅力の一つとなっています。また、甲板ボランティアや日本丸乗船経験者によるガイドボランティアも活動しています(現在活動休止中)。帆船日本丸は多くのボランティアに支えられています。

■ 錬成事業

この事業の中心は海洋教室です。小学生を主に船日本丸、付属の訓練センター、カッター(短艇)などを活用して、船内宿泊を含む船上での生活体験のなかで、帆をひろげたり、甲板磨きをしたり、周辺水域でカッターを漕いだりすることで、協調性や責任感、協力することなどを学び、最終的には海、船、港への理解と知識の増進を図ることを目的としています。

造船技術史の上では、日本で極めて希少な横肋骨方式、リベット構造の大型帆船であり、水密隔壁や二重底といった建造当時の最新設備を備えています。また、機関がレシプロ(蒸気機関)からディーゼルへの移行期の国産最初期の船用ディーゼル・エンジンと関連機器がそのまま保存されています。さらに、航海日誌や機関長日誌、建造時の図面類に加え、船体・機関の来歴簿や検査手帳などが残っていて、船体の修理や検査の体系を知ることができます。

帆船日本丸は横浜港のシンボルとして、人々の心を支えています。

「海員だより」